KOMAZAWA UNIVERSITY 駒澤大学 3－1 東京農業大学 TOKYO NOGYO

サイド突破からチャンスを創出した島田。本人は「ディフェンス面がまだまだなので上を目指して修正していきたい」と更なる進化を誓う
(撮影・川崎篤彦)

これぞ駒大サッカー！！ サイド攻撃炸裂

光差し込む

駒大の状況は天気に表れていた。空は灰色の厚い雲に覆われていた空模様は、新体制となった駒大のリーグ戦での格下明大に引き分けなどの苦戦やゲーム内容の悪さを物語るのに充分だった。しかし、今日は違った。

試合が始まると、今までの鬱憤を晴らすかのように駒大は攻撃に終始した。前節までとは違い高い位置からのプレスが上手くはまり**小林**、**田谷**等が高い位置でボールを獲りサイドから攻めあがる駒大の目指すサッカーを完遂。前半は、はっきり言って駒大の攻撃練習のような展開だった。中でも今日は、**島田**を讃えるしかないだろう。左サイドの**島田**は、暗いピッチの中でスポットライトを浴びている錯覚すら起きるほど躍動していた。東農大は、システム上サイドの選手である**島田**のDFは一人。今日の彼にDF一人は居ないと同然。16分に左サイドで張っていた彼にボールが渡るとワンタッチでDFを抜き去る。以前の彼ならここで迷わずサイドからのクロスを挙げていたに違いない。だが、彼が選択したのは、中央へのダイアゴナルな動きからのシュート。監督の指示によるものかと思ったが聞いてみると「自分で考えてフォーメーション的に中に行ったほうがいいかなと思って行きました」と今年のテーマである考えるサッカーを体現した。それだけにとどまらず**島田**は去年から久々の先発出場とは思えぬ再三のドリブル突破とチーム最多の4本のシュートを放った。チャンスメーカーであった彼がここまでシュートを打つようになったのはチーム状態の悪さから出た功罪といえる。彼の活躍もあり、前半スコアは3－1。

後半もこのままいけば内容も伴ったいい試合のはずだった。だが、**秋田**監督は「(今日の試合を) あまり良くなかった」と述懐。それは、後半の駒大の動きを指しているのだろう。巻の不本意な退場から完全に守る体制を作り一時は5バックにもなって必死に守る。だが、65分頃から一気に運